

今日は秦野市立堀川小学校の4年生の子供たちとエコスクールを開きました。先生役は、獣医師の加藤千晴さんと救護の会スタッフ5名、タヌキのハヤタくん、フクロウのウィズリーくんでした。

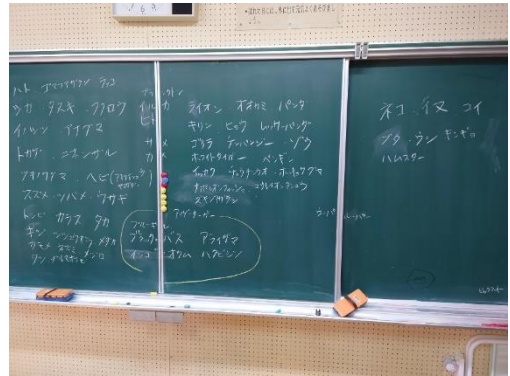
はじめに加藤さんから子供たちへ「知っている動物の名前を教えて！」と声をかけると、すぐに何人かが手を上げてくれました。最初の男の子は「シカ！」と答えてくれました。後に続いた子供たちも「ネコ！」とか「ブラックバス！」とか哺乳類・鳥類の枠を超えて、さまざまな動物の名前を思いつく限り答えてくれました。加藤さんは子供たちの答えてくれた名前をもつ動物たちは、外国に生息している動物やペットなどの家畜動物、日本にもとから生息している野生動物に分けることができると説明しました。そして今日は、日本の野生動物と人はどんなふうにかかわりあいをもったら良いか考えてね、と子供たちに促しました。その後、少しだけ動物の動画を観てクイズをやって第1部が終わりました。

第2部は渡辺理事長の野生動物は人間とのかかわりあいの中で傷ついたり命を落としたりしているという、すこし難しいお話をしました。「なんで動物たちは傷ついてしまうのでしょうか？」という理事長の問いかけに対して子供たちは「森の木を切ってしまうから！」とか「ゴミを（山や海に）捨てているから！」とか「ガラスにぶつかるから！」など真剣に答えていました。回答の内容も正しいものばかりでとても良く勉強をしているようでした。そのあとタヌキのハヤタくん、フクロウのウィズリーくんを囲んでふれ合いや質問タイムを子供たちと楽しみました。傷病鳥獣たちの翼標本もすこしもっていたのでそれらも手に取って色や感触を確かめてもらいました。翼標本を触った子供たちからは「ざらざらな羽根とフワフワな羽根がある！」とか「臭い！」とか貴重な感想をもらいましたが、やっぱり主役はハヤタくん、ウィズリーくんでした。

エコスクールの最後に加藤さんが子供たちと野生動物たちとのかかわり方について質問応答の時間をもちました。子供たちからの質問の中には、「拾ったヒナを自分たちで育てちゃいけないの？」、「怪我をした動物を自分たちで飼ってはいけないの？」のような問もありました。もちろん、「野生動物を勝手に捕まえたり飼育したりすることはできません！」という回答をするのですが、「みんなの代わりに神奈川県自然環境保全センターが保護をして、大きく育つまで餌を上げたり、怪我の治療をするから大丈夫ですよ」と一言そえられないことが心残りでした。



知っている動物を聞いています



いろんな動物がいるんだね



どうぶつクイズ



野生動物が傷つくのはなぜ？



ウイズリーちゃんとハヤタくん